

2015.6.20

生誕150年 “北欧の巨人 シベリウス” 第3回

プログラム

今年は、北欧フィンランドが生んだ大作曲家、シベリウスの生誕150年に当たります。今日はシベリウスを特集するシリーズの第3回をお送りします。

46歳の時に書かれた交響曲第4番は最も難解な作品に属しますが、最高傑作との評価も高く、緻密な書法による室内乐的な響きは完成度が高いと言われ、後年内省化して行くシベリウスの作風を知る上でも重要な作品です。ユモレスクとは気まぐれで滑稽、ユーモアのある曲想を持った楽曲につけられた名称ですが、6曲ある「ユモレスク」はヴァイオリニストを志したシベリウスならではの軽快で愛らしい小品集です。シベリウスが交響曲や交響詩と並んで生涯創作し続けたのが劇音楽ですが、今日は特に有名な2作品をお聴きいただきます。カレリア地方の歴史に基づいた劇音楽「カレリア」から演奏会用に編集されたのが組曲「カレリア」で、明るく親しみやすい曲調から人気も高い名曲です。メーテルリンクの戯曲「ペレアスとメリザンド」への劇音楽は1905年にヘルシンキで上演されました。これを組曲版に編集したのが組曲「ペレアスとメリザンド」で、どれをとっても魅力に溢れたシベリウスの劇音楽を代表する傑作です。交響曲第5番は1915年、シベリウス自身の50歳を祝う国家的祝賀演奏会のために作曲された作品で、北欧の自然をのびやかに謡い、祝典的な明るさと高揚感、終楽章のユーダに向かう圧倒的な力感、そして6つの和音が連打する終結部は、一度聴いたら忘れられないインパクトを持っています。第2番に次ぐ人気を持った傑作です。ごゆっくりお楽しみください。

ジャン・シベリウス (1865.12.8~1957.9.20) :

交響曲第4番イ短調 op.63 ~ 第1楽章、第4楽章から

パーヴォ・ベルグランド指揮ベルリン放送交響楽団

(1992.4.12 ベルリン・フィルハーモニーホールでのLive)

ヴァイオリンと管弦楽のための“2つのユモレスク” op.87 ~ 第1曲

ヴァイオリンと管弦楽のための“4つのユモレスク” op.89 ~ 第1曲、第3曲、第4曲

レオニダス・カヴァコス (ヴァイオリン)

ヤックヤ・リン指揮ローザンヌ室内管弦楽団

(1994.1.17 ローザンヌ、ボーリユー劇場でのLive)

組曲“カレリア” op.11

1. 間奏曲 2. バラード 3. 行進曲調で

ホルスト・シュタイン指揮NHK交響楽団

(1998.2.12 NHKホールでのLive)

*** 休憩 ***

ジャン・シベリウス (1865.12.8~1957.9.20) :

組曲“ペレアスとメリザンド” op.46 ~

1. 城の門にて 2. メリザンド 3. 庭園の庭 5. パストラール 8. メリザンドの死

ユッカ・ペッカ・サラステ指揮フィンランド室内管弦楽団

(1994.8.5 イツエホー劇場城でのLive)

交響曲第5番変ホ長調 op.82

サカリ・オラモ指揮ウイーン・フィルハーモニー管弦楽団

(2012.2.25 コペンハーゲン、チボリ・コンサートホールでのLive)

★1965年生まれ、フィンランド出身の俊英オラモがマゼールの代役でウイーン・フィルデビューを飾った記念すべき名演奏。

★ホームページアドレス <http://www.bekkoame.ne.jp/~hippo/gewandhaus/>